

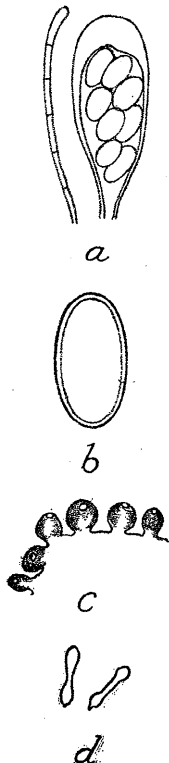
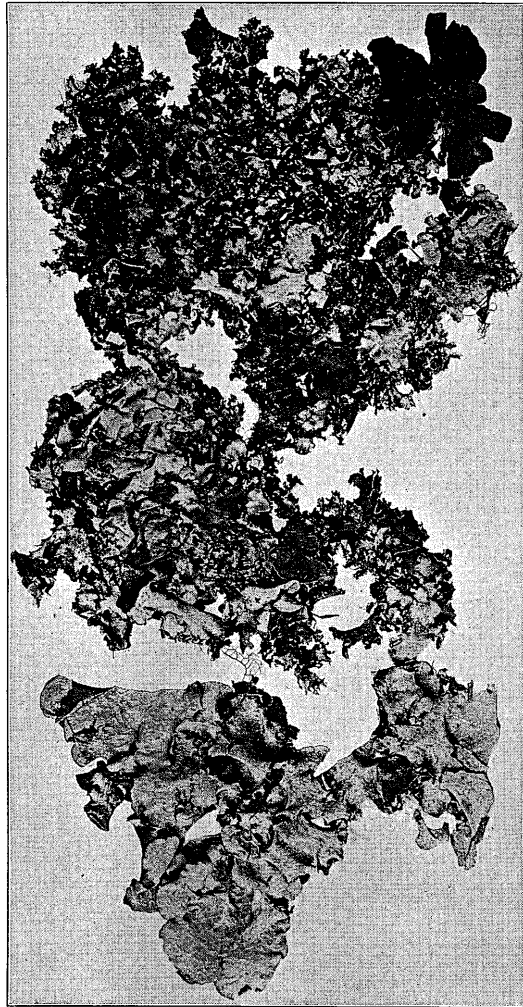
來之ヲ繼續セシト雖モ萎靡振ハズ頗余輩ヲシテ失望セシムルニ至レリ同十六年四月ニ至リ會長ノ外ニ幹事二名ヲ置クコトニ議定シ松村任三氏ト余ト其選ニ當レリ又會費釀集ノ方法ヲ定メシモ猶未雜誌ヲ發刊スルニ至ラズ然ルニ這開始テ之ヲ發刊スルコトヲ得ニ至レリ余輩ノ喜復何ヲ以テ之ニ加ヘンヤ回顧スレバ明治十五年十月頃ヨリ一時會員ノ出席大ニ減少シ或ハ本會ヲ東京生物會ニ合併スベシトノ説起リ本會ノ絶エザルコト縷ノ如クナリシモ今ヤ之ヲ挽回シ雜誌ヲ發刊シ余輩年來ノ希望ヲ遂グルニ至リシハ畢竟矢田部會長ガ公務ノ繁劇ニモ拘ハラズ本會ノ誘掖ニ盡力サル、ノ致ス所ト雖ドモ抑亦會員諸氏ノ熱心ニ因ルモノナリ今後余輩ハ益協力同心シ以テ後來本會ノ彌昌盛ニ至ランコトヲ企圖スト云爾』

### ○蕾 軒 獨 語 (其十三)

蕾 軒 朝 比 奈 泰 彦

#### ○とこぶしごけ

我國ニ産スル大形ノ地衣ト言ヘバ先ヅ多クノ人ノ知ツテ居ルうめのさごけ(本誌第三卷五號、蕾軒獨語其四參照)デアツテ少シク温カイ平地、例ヘバ東京附近デハ湘南地方、房總地方、伊豆地方ノ海岸ナドニ行クト徑一尺ヲ超越スルモノハ屢々見受ケルノデアアル、然ルニ山地ヘ行クニ從テうめのさごけノ大サハ縮少シテ來ル、ソウシテとこぶしごけ *Cetraria collata* *Mutill.* *Arg.* ガ大形葉狀地衣デハ牛耳ヲ執ルヤウニナル、例ヘバ天城山、富士一合目以上ノ森林帶、秩父諸山、日光諸山等ニ行ケバ誰ニデモ此とこぶしごけガ目ニ着クノデアアル、小生ガ今迄ニ最大ト認メタモノハ日原仙元峠ノ頂上デ得タ品デ葉狀體ノ輪廓橢圓形ヲナシ其長徑一尺五寸ヲ算シタノデアッタ、此地衣ノ葉質ハ鞣皮様又ハ厚紙様デ乾燥時ハ表面灰白色ヲ呈シ皮層ノ表面ハ滑澤デアアルケレ



a 胞子ヲ有スル子囊ト絲狀體  
50×15 $\mu$   
b 胞子 13×8 $\mu$   
c 葉絲ニ群生スル雄器(擴大)  
d 精子 6×1 $\mu$

(蕃軒原圖)

とこぶしごけ (Cetraria collata Müll. ARG.) (♀)

ドモ多數ノ白點  
ヲ基布シテ居ル  
一寸見ルト粉芽  
カト思ハレルガ  
サニアラズシテ  
髓層ノ菌絲ガ皮  
層ヲ破リテ露出  
シ葉體ノ内部ニ  
空氣ノ流通ヲ容  
易ナラシメ、綠顆  
體ノ同化作用ヲ  
旺盛ニスル役目  
ヲ持テ居ルモノ  
ト解釋シテヨカ  
ロウ、地衣學者  
ノ中デハ之ヲ擬  
盃點 Pseudocy-  
phellaト呼デ居  
ルモノガアル、

外廻リ瓣片ハ大形デ徑往々 3-4 cm ニ及ブモノガアル丸味アリテ邊緣ハ更ニ波狀ニ屈曲シテ居ル、裏面ハ邊縁ノミ褐色デ他ノ部分ハ多少光澤アル眞黃色ヲ呈シ少數ノ毛根デ樹皮ニ着生スル、子器 (Apothecia) ハ亦往々大形ヲナシ徑 1-2 cm ニ至リ圓形ノ輪廓ヲナスベキデアルガ往々梅鉢形ニ裂ケ中央ニ穿孔シテ居ル盤ハ赤褐色、托ノ外面ハ葉體ト同様ニ白色ノ擬盃點ヲ有シテ居ル、此地衣ハ徒ニ其外形ヨリ判斷スルトウめのさごけ屬 (Parnelia) ノヤウニ見エルガ葉狀體ノ中央部邊ヨリ分出スル葉片ノ縁ヲ「ルーペ」で見ルト黒色ノ疣ガ並列シテ突出シテ居ル、コレハ雄器 (Spermatogonium, Pyrenide) デセトラリア屬ノ特徴デアアル、及此地衣ノ化學的反應ハ苛性加里溶液ヲ表層ニ點ズルト黃色ヲ呈スルガ髓層ハ呈色シナイ、又漂白粉溶液ニハ何處モ感ジナイ、コレヲ符號デ書ケバ  $K_2^{+}P_{2}O_7^{+}$ ,  $CaCl_2$  トナル、又往々此地衣ニ酷似シテ居ルケレドモ葉體ノ中央部ヨリ分出スル瓣片ノ縁ガ細裂シテ居ルモノガアルガコレハ *Cataria collata* Müll. Arg. f. *microphyllina* A. ZAHLEBRUCKNER ト云フモノデちよれとこぶしごけト新ニ和名ヲ附スルコトニスル



海藻學ヲ始メタ大學生時代ノ  
岡村金太郎君  
(明治二十二年九月十七日東京九段坂  
鈴木眞一寫眞館撮影)

### ○海藻學ヲオヤリナサイ

理學博士 岡村金太郎

海藻類ノ研究ト云フト兎角世間デハ何カ非常ニ六ヶ敷イモノ、様ニ思ヒ又ハ一寸手ガ出シニクイカノ様ニ言ツテ居ル様ダガ別段ソソナニ六ヶ敷イモノデハナイ、尤モ他ノ植物類ト違ッテイロイロ澤山ノ參考書ガアル譯デナイカラト云フ事ノモ一面倒ニ感ズル點デアル様ダシ又一寸材料ヲ獲ルノガ困難ダト云フ様ニモ思ハレル、全ク材料ハ陸ノモノト

海藻學ヲオヤリナサイ